

在中に是非一度會つて日本に於ける Shell-fish culture の話を聞きたいとの事であつたので、一日 Board of Education の事務室に訪問した。印度並に濠洲各地の眞珠の標本を見せられた、又一ツ支那産のものだといつて今迄に見た事のない Hight の短い扁平な眞珠介を見せられ、日本にもこれが居ますかなど尋ねられた。自分が紐育に居た時に濠洲産の蝶介に拇指大の介付眞珠を付けた立派な標本十五六枚を見た事があるといつたら、それは故 Saville Kent の仕事で Somerset (Tones Straits) 附近で造られたものである、其方法は祕密にされて居るが併し日本流の方法とアナログスなりと想像せられる。始めは一枚百弗にも賣れたとのことであつたが自分は其價の不當なるを信する。其後ケント氏の逝去と共に其事業も消えた様で後の話しを聞かないと言はれた。最近に ALBERDES 氏の發表されし人工眞珠形成の論文 (Zool. Anzeiger 一三年九月號) は多少理屈に叶つて居るではありませんが、併し實際出来るか出来ぬかは保證が出来ぬなど語られか

アレン博士、大正二年の暮れにプリマスの臨海實驗所を訪問して同博士の厚遇を受けた。例の硅藻のビュア、カルチニアを續けて研究されて居た。此前に發表された時より今日は餘程進んだ新しい結果を得たといふ事を語られた。遠からずして又有益なる論文が出ると思ふ。プリマスは英國內の實驗所中最もよき地の利を占めて居

(續) ○クロジヨウビタキに就て

るので、寒暖兩方の Fauna が居る。所謂佛國のサーヂンが捕れるかと思へば練の稚魚を捕へて水族槽に飼育されて居る。魚卵稚魚の研究には絶好の場所である。シタデルの岩壁に建つて居る此實驗所から軍港内を見下ろす景色は眞に絶景である。文献の完備して居る事も美望に堪へぬ。博士は本棚の中に我が動物學雜誌の一部分の飾られて居るのを示され『日本語は吾等に取つては餘りに難澁であつて理解することは出来ぬ、併しこうして蒐集して置けば何時か役をすることがあると信する』と語られた。私はその意味深長なるを感謝した。此處には先年日本を訪問されたクロセイ氏が海洋調査の仕事をして居らる。(了)

(妹尾秀實)

○クロジヨウビタキに就て

子爵松平頼孝氏より近來朝鮮より得たる標本の内に所題の如き鳥が有つたからとて余に示された。余は本種は未だ我國の「あびあうな」には初めての鳥と思ふたに依つて此處に叙し合せて氏の好意を謝す。

記載、嘴及び脚は黒色。頭部、脊部、胸部及び翼の小雨覆は眞黒にして稍石盤青色を帯びた光澤がある。他の雨覆及びびて總ての風切はせびあ色にして大雨覆次列風切及び小翼羽には狭き淡褐色の縁がある。腰部上下尾筒及び尾羽はジョウビタキに見る如き赭赤色にして最上位の中央尾羽は先端に近くせびあ色を

帯びたる部分がある。

大さ、翼長、二寸八分五厘、嘴峰、四分、跗蹠、七分五厘。

産地、朝鮮咸鏡北道。

以上の記載より見る時は此の標本は雄にして學名をば *Phoenicurus ochruros rufiventris* (VIEILL.) と稱するもので蒙古、支那の北部コ、ノール西藏等に産し冬季は北部印度に渡り行く鳥である、多分東部ヒマラヤ、シツキム以東にも産するなるべしとハルテルト氏は云へり。同氏の記載に依れば雌は稍灰色を帯べる褐色にして下部は稍其色薄く翼はせびあ色にして雄に見るが如き所に同様の縁がある。腰部其の他の部分は雄と同様である但し稍其色が褪せて居る、卵は淡青色で無紋であるとハルテルト氏は云つて居るがブレスケ氏はブルツロスキ氏の採集せる卵によりて記載して殆ど見分け難き細微な斑點があると云ふて居る。其の大きさはハルテルト氏の分は長徑一九・六乃至二〇・五厘、短徑一四・七乃至一五・四厘でブレスケ氏の分は長徑一九・五厘で短徑が一四・五厘であると云ふ。

因に 本種は元來 *Ruticilla titys pleskei* (SCHALOW) と云はれたる鳥であるが *Phoenicurus* の方が *Ruticilla* より先に本種即ちジョウビタキの類に用ゐられたる屬名なるにより然く變せられ又種名 *titys* はリンネ氏が歐洲産のじょうびたきの雌の老鳥に誤りて命名せるものが古くより歐洲産のクロジョウビタキに誤

用せられたものである、而して今日の種名 *ochruros* は小亞細亞ベルシヤ地方に産するクロジョウビタキにグメーリン氏が命名せるものにて歐洲産のものよ名が誤用せられ居りし爲め歐洲産のものより後に發見せられたるものが基型となり歐洲産のものは其の亞種として *Ph. o. gibraltariensis* (G.M.) と稱する事となつたのである。

(鷹司信輔)

● ノスリの雌雄及習性

ノスリの雌は大きく、雄は比較的に小さい。(日本鳥類圖說參照) 此大小で區別する外、雌雄を一處に駢べて對照してみると、雌は總じて褐色に富み、雄は比較的黒みが勝つてゐることがわかる。所掲の實例の向つて左は雌で右は雄である。

雌、翼長一尺二寸五分、尾長七寸七分五厘、嘴峰九分。
雄、翼長一尺一寸六分、尾長六寸七分五厘、嘴峰八分五厘。

日本鳥類圖說、ノスリの雄の條に、嘴峰二寸五分、とあれど、實體八例、剝製標本十數例の實測に徴して、右は或は活字の誤植なるべしと思はる。

幼鳥一腹三羽は、各成長の差を示し、長は大きく、次は之に次ぎ、三は最も弱し。此時季に其最も大なるものを解剖して觀るに必ずしも雌ならず。故に幼鳥の雌雄を判するに方り、成鳥の例に準じて單に體軀の大小を標準